

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士 (医 学) 氏 名 宮崎 将也

	主査	教授	松野	吉宏
審査担当者	副査	教授	田中	伸哉
	副査	教授	寶金	清博
	副査	教授	清野	研一郎

学位論文題名

CRK-DOCK 関連シグナル伝達分子の分子病理学的解析
(Molecular pathological analyses of CRK-DOCK related signaling molecules)

CRK-DOCK ファミリータンパク質は、これまでに種々の疾患での関与が報告されている。本検討で申請者は、同ファミリータンパク質の機能を腫瘍および非腫瘍性疾患の両者にて検討した。腫瘍では、グリオブラストーマ臨床検体を用いて CRK-DOCK ファミリータンパク質およびその上流のレセプター型チロシンキナーゼ (RTK) の免疫染色を行って臨床病理学的に相関関係を検討し、バイオマーカーとしての有用性を検討した。非腫瘍性疾患では、インフルエンザ A ウイルスにおける CRKL タンパク質の機能の新知見を示し、治療標的としての利用可能性を示した。

発表後、副査の清野教授からは想定される分子メカニズム、IDH1 変異と CRK-DOCK ファミリータンパク質発現の相関の有無の質問があった。副査の寶金教授からは、TS 算出方法の妥当性、バイオマーカーとしての将来性に関して質問があった。副査の田中教授からは、免疫染色での *invasive front* の評価、G-CIMP との関与、NS1 と CRKL の Akt への影響について質問があった。主査の松野教授からは、前段階の検討の必要性について、*Oligodendroglioma Component* の有無での予後の差に関して、各臨床因子および MGMT 発現と CRK-DOCK ファミリータンパク質および RTK 発現の相関の有無について、今後の臨床応用のため課題について、染色偽陰性に関して質問があった。申請者はいずれの質問に対しても、具体的評価法や知見を用い適切に回答した。

この論文は CRK-DOCK ファミリータンパク質を臨床応用するために必要な重要な知見を提示しており、医学の更なる発展に寄与するものと期待される。

審査員一同はこれらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士 (医学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。